

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100467		
法人名	(有) 百栄		
事業所名	グループホーム つぼみ		
所在地	那覇市具志2-18-12		
自己評価作成日	令和4年10月22日	評価結果市町村受理日	令和5年 4月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790100467-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和4年 11月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①月に3回の行事を計画し外出支援や誕生会、季節の行事を行っています。 ②健康管理をしっかり行っています。風邪予防のため毎日の食事に、にんにく、しょうがを入れ昼食時に毎日ヨーグルトにオリゴ糖をさしあげている。 ③利用者の皆様が思い思いに過ごせるように本人の希望に出来るだけ添えられるように支援を行い、又、心身の機能訓練を行う事により、可能な限り営む事ができるように支援しています。 ④週に一度皆でおやつ作りを行っています。 ⑤利用者の希望に沿った食事を提供している。 ⑥平屋一戸建てで庭には桜の木があり毎年桜の花見ができます。バナナの木もあり毎年、皆で収穫しています。 ⑦天気の良い暖かい日はテラスにでて日光浴をしたり花を植えたり楽しむ。 ⑧毎日の食事は職員の手作りで差し上げています。アットホーム</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街の中、赤瓦屋根の平屋を改造した事業所は、「ここはおうち」の理念のもと、「職員自身の家族だったらどう対応するか」を基本とし、入居時の利用者や家族の不安感を和らげ、安心して暮らせるよう思いを持って実践している。食事は、利用者の希望も反映し、3食事業所で調理している。健康維持を目的に、味噌汁やヨーグルトを毎日の献立に取り入れるなど配慮している。毎週研修が企画され、身体拘束廃止を進めるための18のチェックポイントや法令順守、コンプライアンス違反等の研修も実施し、ケアの質を高めている。年に2回、昼夜想定避難訓練を実施し、火災、地震、風水害、台風等の災害対策マニュアルを整備し、事業所内で水やレトルト食品等を準備し、法人においても予備を保管している。コロナ感染症業務継続計画や各種マニュアルも整備している。職員は利用者一人ひとりの服薬内容や効能、服薬状況等を共有し、具体的な服薬手順に沿って対応する等、安心安全な日常生活を支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが理念を基本に目標を達成できるように共有し合い実践につなげるように日々努めている。 ・朝のミーティングにて、理念の確認を行っている。 ・私達は家族という理念にもとずき自分のオジーオーバーのように寄り添う。 	理念の共有と実践については、入居時の利用者や家族の不安感を和らげ、安心して暮らせるよう思いを持って実践している。「ここはおうち」の理念には、「自身の祖父母だったらどう対応するか」を基本にしている。健康維持のために、味噌汁やヨーグルトを毎日の献立に取り入れるなど工夫して支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・月に3回の行事や外出支援を行っており自治会、ちいきの行事に参加し交流を図っていた。 ・時々、近隣の方から野菜や果物の差し入れがあり日常的に交流していた。 	事業所と地域とのつきあいについては、住宅街に位置していることから、近隣地域へ開所当初から事業所のPRや周知をしている。コロナ禍前は、近隣の保育園や学童との交流、自治会の祭りへの参加、マラソン大会の見学等、広く地域へ溶け込んでいた。昨今は、朝夕の近隣散歩時、地域の方と挨拶を交わしたり、隣の方から野菜を頂く等の活動が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の老人会へ参加ができなかったため、違う形で認知症の勉強会を予定していたがコロナ渦でできなくなり、落ち着いてから勉強会を予定していきたい。 	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に家族が参加しやすい工夫と知見人の参加を目標にしたが、コロナ渦で入館困難で職員との会議となる。 	運営推進会議を活かした取り組みについては、令和4年10月26日までの間、2か月に1回定期的に会議が行われている。コロナ禍の中、法人の方針により、外部の方の訪問等、入室を禁止していることから、会議は利用者と職員の参加となっている。会議録は作成されているが、委員への報告やアドバイス等のやり取りは確認できなかった。コロナ禍においても、会議のあり方等の工夫が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない事があれば、ケアマネが直接市役所に出向き相談をしている。推進会議、議事録の提出を行っている。 ・以前は買い物支援ボランティアに参加し包括とも連携がとれていた。これからも連携し協力し合えるようにしたい。コロナがおさまり次第、協力関係を築きます。 	市町村との連携については、コロナ禍で運営推進会議への外部委員の参加ができないため、施設内で開催された会議録を役所へ持参し、情報交換や書類の記載方法等、相談を行っている。包括支援センターと連携し、事業所の空き情報を伝え、利用者を紹介してもらうこともある。県や市のホームページから研修情報を得て参加している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和5年3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束、虐待防止についての理解に努めている。又、身体拘束については、会社取締役が権利擁護推進委員であり、会社全体として取り組んでいる。平成28年2月に管理者も推進員研修受講済み。職員も同年12月に受講済みである。身体拘束0に努めている。 	<p>身体的拘束をしないケアの実践については、運営推進会議と一緒に2か月に1回、身体的拘束等の適正化のための対策委員会が施設内で実施されている。身体的拘束等適正化のための指針や身体的拘束等の排除マニュアルも作成されている。事業所では毎週研修が企画され、身体拘束廃止を進めるための18のチェックポイントや法令遵守、コンプライアンス違反等の研修も実施している。</p>	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングを開き身体拘束について理解等に努めている、問題がある場合は会議を開き報告、相談、話し合いを行っている。 ・言葉の虐待を使わないように心がけている。 ・グループホーム協会の研修、職員参加しました。 	<p>虐待の防止の徹底については、那覇市高齢者虐待防止対応マニュアルをもとに、虐待のない支援に努めている。外部講師による高齢者虐待防止に向けて、高齢者虐待の種類と具体例の研修や不適切なケアが発生した場合の対応等の内部研修が定期的に行われている。「ちょっと待って」から「すぐに行きますので待っててください」等、言葉の拘束をしないよう意識して対応している。</p>	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議等や勉強会を設け話し合いを行っている。 ・会社全体として成年後見制度、権利擁護等、制度についてや、窓口の確認を行い利用にむすびつく場合、すぐに動けるようにしている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約書については、ケアマネがわかりやすく説明し相談や不安等があれば、何時でも相談できるように心がけている。 		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や利用者の意見や要望を聞き反映出来るように努めている。 ・病院受診の連絡等の連絡をメールでやりとりする時に要望や意見を確認するようにしている。 	<p>運営に関する利用者、家族等の意見の反映については、レク活動等で回想法を行い、「てびちが食べたい」等、利用者の食べたい物を聞き、献立に反映している。コロナ禍で面会も制限される中、家族の意向を踏まえ、定期受診は職員が対応している利用者もいる。衣替え時期は、家族による衣類の準備も行われている。</p>	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に4回ミーティングを行い意見等を話し合う機会を設け職員からの意見、提案を話し合い、レクや外出等についてや、食事など、よりよくなるように話し合い、運営に反映させている。 ・毎日の申し送り時にも確認し合う。 	<p>運営に関する職員意見の反映については、法人や管理者は、職員の意見等を大切に考えており、ミーティング等で職員の意見を吸い上げ、運営に反映している。休憩時間を12時～13時、13時～14時と決めて取り組んでいる。法人は、人事異動もあるが、利用者と職員の馴染みの関係に配慮し、事業所職員の異動は行わないようにしている。</p>	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者との週一回の申し送り時に、職員の勤務状況を聞き取り、把握している。給与水準、労働時間などは、他事業所の状況も把握し決めている。各自がやりがいもてるよう、毎月、事業所の目標を定めてもらい、自分たちで評価してもらい、聞き取りをしている。休憩の1時間はしっかりとれるように伝えている。 ・有休は2019年4月から5回以上の消化をしています ・夜勤者全員が年2回健康診断できるようにしています 	<p>就業環境の整備については、法人は、職員がやりがいを持てる職場づくりの一環として、休暇取得や健康診断等、就業規則に記載し、夜勤者は年2回健康診断を実施している。職員の研修の機会も確保され、介護現場におけるハラスメントについての研修が実施され、職員に周知している。ハラスメント対策マニュアルはあるが、就業規則には、ハラスメントの防止に関する項目が確認できなかった。</p>	<p>職場環境におけるハラスメントの防止に向けて、就業規則へのハラスメントの防止に関する項目の追加が望まれる。併せてマニュアル等の見直しにも期待したい。</p>
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週会議にて勉強会を行っている。外部への研修等も受講の機会を設けている。又、会社内でも合同勉強会を行っている。ミーティング時に勉強会も兼ねて行っている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇市の連絡会に参加し交流を図る、困難事例や取り組み色々な話し合いをしサービスの質を向上させていく取り組みをしていた。 ・コロナが落ち着き次第交流を図って行きます。 		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族の希望や要望、相談等を聞き出し安心を確保するために聞き取りを行っている。聞き取った内容を基に、課題分析を行い、担当者会議に結びつけている、何でも話してもらえるように、特に初回面談には、ゆっくりと話を聞くようにしている。 		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービスの利用についての相談があった場合は、家族に合せて家族が求めている事、困っている事を十分に聞き入れ、相談を受け、信頼関係作りに努めている ・利用者の日頃の状態、健康状態を報告し安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・聞き取った内容を踏まえ、必要とするサービスを細かく聞き取り、食事や入浴などの生活面から制度の活用やその時の心身の状況にあわせ、医療面に対してもフォローしながら利用も含め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家族的な雰囲気の中で一日を過ごし家事を一緒にやり暮らしを共にする関係を築いている。 ・共に笑い、共に楽しみ、お世話をしていると思わず、させて頂いているという気持ちで利用者との関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人の状況や思いをお伝えし、本人と家族の絆を大事にし共に支え合う関係である。何かあればできるだけ家族に報告し、本人にとって何が一番大切なのかを共に考えサービスにつなげている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今は、面会できない為 支援できなくなっています。 コロナが落ち着き次第また支援していきます。	馴染みの人や場との関係継続の支援については、利用者の半数が近隣出身で、半数は離島や県外出身となっている。国際通りや守礼の門等、利用者が行きたい所や思い出の場所を聞き取り、出かけるようにしている。コロナ禍前は、地域の馴染みの美容室へ毎月出かける利用者や、知人がいるスーパーに買い物に出かける利用者もいた。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同志の関係の把握に努め一人ひとりが関わり合い支え合えるように支援している。 ・利用者の好きなことや、得意な事などの把握や毎日のレク活動など、毎日、利用者同士が関わり合えるようにしている。孤立しないようにリビングで過ごさせていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス利用終了後もこれからの関係を大切にしながら相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の思いを常に受け止め、可能な限り実現に向けて取り組んでいる。 ・外出先の希望や、食べたい物の希望、季節の行事についての希望など取り入れた生活になるように工夫している。 ・外出支援では、マックのドライブスルーを利用し大好きなアイスクリームやポテト、天ぷらを買に行ったりする。	思いや意向の把握については、レクの時間を利用し、利用者の希望や意向等、聞き取りができるよう努めている。発語のある利用者には意見を聞いてもらい、発語が少ない利用者には、選択しやすいよう言葉かけをし、利用者の表情やしぐさを見ながら、意向の把握に努め対応している。日々の支援においては、ドライブや外出先、献立等の希望も利用者を確認しながら行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの暮らし、生活を本人や家族に聴き取りし把握に努めている。 ・ケアマネがアセスメントシートを作成しミーティングにて職員が把握できるしくみを作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・本人の状況把握に努めるとともに会議や申し送り等で現状を把握できるように努めている。 ・ケアマネのアセスメントシートを基に、エンパワメントの活用についてプランにもあげ残存機能を生かした生活ができるよう、職員は把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が発見された場合、それぞれの意見や話し合いより良いケア確立に努めている。 ・ミーティングにて、利用者についてモニタリングを含めた話し合いを行っている、介護計画書見直し時は家族も含めた担当者会議を行い計画作成をしている。 	<p>チームでつくる介護計画とモニタリングについては、長期目標を1年、短期目標を半年とし、毎月のミーティングで確認しながら、6か月毎にモニタリングを行い、介護計画を作成している。介護計画には、本人の生活全体の意向やニーズが記載され、新聞を読む、花木に水やりを一緒に行う等、具体的に分かりやすい表現となっている。評価し達成後は、ニーズ変更も行われ、入退院後で随時の見直しも行われている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・業務日誌や個別記録を用い情報共有と課題発見し見直しに活かしている。 ・毎日の日報を管理者が点検すると共に申し送りノートにて情報共有を行っている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスについて相談に応じ柔軟な支援ができるように努めている。 ・病院受診など家族の対応が難しい事も多く、必要性の高い支援については特に早急に対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア実習生等積極的に受け入れ要請を行っていた。落ち着き次第また受け入れたいとおもいます。 ・自治会への働きかけを行い、協力してもらっている。 		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族の希望を大切に適切な医療が受けられるように努めている。本人の状態において気になる点があればその都度、報告している。 ・現状報告書を持ちいて、書面でのやり取りを行っている。 	<p>利用者1名は馴染みのかかりつけ医を継続して家族とともに受診し、8名は相談の上希望する協力医に変更し、職員が受診支援を行っている。受診時は看護師が作成した「現状報告書」や口答で情報交換を行い、受診結果は、家族対応を基本としている他科受診も含め電話やメール、申し送り等で共有している。コロナ禍で中断しているが、利用者全員が訪問歯科を利用している。利用者は、必要時に血液検査等を受けている。かぜ防止や体調維持のため、毎日の献立に生姜やニンニク、ヨーグルトを取り入れている。</p>	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同会社のデイサービスのナースにとらえた情報や気づきを相談し何かあったらすぐに対応できるように受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時の看護サマリーや電話等で報告や相談をし情報交換を行う。退院時には、カンファレンスをお願いして、病気についての説明と、今後おこりうる事や今後の注意等を聞き、サービスにつなげている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化に対する指針は家族に説明同意を受けている。業所所としての方針を共有し家族を含めた話し合う場を設ける。 ・ターミナルケアについての家族の考えや思いをしっかりと聞き支援に取り組む。 ・H30年12月に看取り介護の支援を行いました。	重度化や終末期に向けた方針については、契約時に「重度化した場合における(看取り)指針」をもとに家族等に説明している。状態が悪化した場合は家族等の意向を改めて確認し、同意書を取っている。看取りを希望する場合は主治医や訪問看護等との連携を密にし、職員全員で対応している。職員は、看護師や訪問看護と勉強会を実施し、看取り支援の内容等を確認し合っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ミーティングにて緊急時の対応や事故発生時の対応を行っている。応急手当の対応はこれから研修に参加する予定。 ・毎週のリスクマネジメントを含めたアセスメントの中から、利用者一人一人の起こりうる急変時のラインの確認も行っている。	緊急時対応マニュアルを整備するとともに、「緊急搬送手順」や「緊急対応ライン」等を作成し、緊急時の対応について職員の共有を図っている。事故やヒヤリハット発生時は、初期対応の後、報告書を作成し、当日か翌日中に再発防止の検討会議を開き、議事録を整備し、周知を行っている。損害賠償保険への加入は、契約時に説明している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・今年も入館できない為(株)オカノさんとの訓練はなく職員だけで行う予定。非常用飲料水は6日分確保している。 ・コロナが落ち着き次第、地域との協力体制を築いていきたい。	年に2回、昼夜想定避難訓練を実施している。各回とも消防署へのメール申請書、実施計画書、総括としての「消防訓練結果表」がまとめられている。地域住民への協力依頼は控えている。火災、地震、風水害、台風等の災害対策マニュアルを整備し、事業所内で水やレトルト食品等を、利用者や職員の5日分備え、法人でも予備を保管している。備蓄リストは作成していないが、点検や補充を定期的に行っている。コロナ感染症業務継続計画やコロナ感染症対策マニュアルを作成し、他の感染症対策マニュアルも整備している。災害発生時の業務継続計画の作成や研修はこれからとしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づいた対応を全職員で心がけるように努めている。プライバシーに関する職員指導も行っている。会社全体の勉強会の他、マニュアルも参考にしている。 	職員は、利用者一人ひとりの基本情報等について共有し、一緒に生活する家族のように利用者に寄り添いながら、年長者として敬うことを忘れず、言葉遣い等に気をつけている。利用者について情報交換を行う際は、他者に聞こえないよう配慮し、簿冊等は鍵のかかる書庫に保管している。排泄支援時はドアを閉め、入浴は利用者の能力に応じて介助や見守りを行っている。居室に入る際は、ノックと声かけを行っている。個人情報保護方針や利用目的を整備し、契約時に説明して同意書をもっている。方針や利用目的は公表している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をゆっくりと聞き取る時間を作り日常においても、本人がどうしたいのか、聞いてから行うよう心がけ反映できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向を確認し希望にそって支援するように努めている。 ・入浴等、拒否がある場合には時間がたってから再度声かけするなどしている。 			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出時や入浴後その人らしい身だしなみができるように支援している。外出支援で美容室を利用されていたが今は、希望があれば職員で散髪を行っている。コロナが治まり次第、美容室を利用されおしゃれが楽しめるように支援したい。 			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの好みを聞き時々活かしている、出来る範囲で時々下準備を行っている。 週一おやつ作りの支援を行っている。 その時は利用者が中心となり、得意な事をしてもらい職員は手助けにまわっている。 ・利用者と一緒に食事準備や片付けをしている。 	食事は、職員が作成した献立をもとに、利用者の希望も反映して3食事業所内で調理している。調査当日、食堂とリビングをつなぐ廊下に設置されたキッチンから、調理の様子が伝わり、家庭料理的な香りがしていた。利用者は盛り付けやテーブル拭きに参加し、週1回のおやつ作りでホットケーキやひらやーちーと一緒に作っている。雑誌の写真から、食べたいものを見つけて希望する利用者もあり、要望に応え月に2回てびちを提供している。和食の店での食事会も実施していたが、現在は外食を控えている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスを考えた献立が作られている。食事や水分摂取、排泄のチェックも行い健康状態の維持を努めている。 ・血液検査の結果などからの主治医からの指示を守った食事を提供し野菜ジュース、ヨーグルトにオリゴ糖を加えた食事を提供している。 ・入浴後にポカリスエットで水分補給行っている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、本人の力に応じた口腔ケアをしている。 ・歩ける方は、洗面台にて、歯ブラシを使っている。歩けない人はテーブルに洗面器、歯ブラシ、コップを用意して行っている、どちらの場合も職員が介助している。 		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの排泄パターンを把握しなるべく自立にむけた支援を行っている。 ・排泄チェック表により、排泄リズムを作るようにしている。過活動膀胱により、排泄時間が短くなったりするため、現在は主にその治療を行うようにしたり、毎日の入浴により、尿路感染症をなくしたりしている。 	<p>トイレでの排泄を支援する方針とし、日中は全利用者がリハビリパンツを使用している。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンや能力、尿量等を把握し、支援している。持病を持っている方は悪化させないよう、その人に合った声かけや案内をしている。午前中の機能訓練等で自立に向けた支援を行っている。自然な排便を促せるよう、職員は勉強会で学び、献立の工夫やレク活動等に反映している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送り時に排泄チェックを行っている。便秘の方への食材や飲み物等に工夫を行い腹部マッサージなどを行い予防に努めている。 ・薬により、便秘しがちになる方もいるので、処方箋のチェックも心掛けている。 		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴への声かけを行いなるべく本人の希望に沿って支援を行っている。 特に女性の方々は尿路感染症予防の為に毎日の入浴を行っている。 	<p>入浴は週に何回と固定せずに毎日声かけをし、女性利用者や皮膚疾患のある方にはなるべく回数を多くして支援している。毎日入浴する利用者もいる。入浴拒否はなく、「2番目に入りたい」や「今日はゆっくり入りたい」、「1人で入りたい」等の希望に応え、午前・午後の入浴に対応している。同性介助を基本とし、対応できない場合は説明して承諾を得ている。香りのいいシャンプー等、愛用の入浴用品を使う利用者、入浴後の飲み物を楽しみにする利用者もいる。</p>	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人の生活習慣、時間帯によって声かけを行い休憩、安眠できるように支援している。 その方その方、入室のタイミングもあるため様子を見ながらリビングから入室させ、ベットに移乗させている。アロマなど使用して、安眠できるようにしたり工夫している。 		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 服薬の内容確認、支援と症状の早期把握に努めている。異常時や変化があれば医療機関、薬局へ連絡、確認、相談を行っている。 現状報告書により、書類によるやり取りも行っている 	職員は利用者一人ひとりの服薬内容や効能、服薬状況等について共有し、「ナースのための薬理学」等の資料で薬について学習している。薬の変更時は申し送りで周知している。「服薬介助の流れ」に具体的な服薬手順を明記し、服薬後のダブルチェックを3回確認に改め、ヒヤリハットや誤薬事故もなく、安全な服薬支援に努めている。眠剤の減量について、計画作成担当者や看護師から主治医に相談して変更し、利用者の体調が改善した事例がある。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの生活歴や残存能力を活かすように努め趣味活動や家事等の支援を行っている。 アセスメント時に生活歴を聞き取り、週一回のミーティング時に一人ひとりのアセスメントについて職員全員で取り組んでいる、その時に役割や楽しみについても話し合っている。 		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 本人が希望した際に外出できるように支援を行っていた。和風亭に食事を出かけていました。月に一度はドライブに出かけマクドナルドなどに、出かけられる支援を行っている。 なるべく行きたい所に希望があれば出かけたくなります。落ち着き次第で出かけられるように支援します。 	感染対策を行いながら、日課として毎朝・毎夕の散歩を希望する利用者を支援している。天気の良い日は、車イスの利用者も散歩し、離れた場所から近所の住民と挨拶を交わしている。月に1回程度ほぼ全利用者でドライブをし、首里や糸満方面に出かけ、アイスクリームや天ぷら等を食べる機会を設けている。浜下り等の行事や利用者の希望するコンビニへの外出も支援している。毎年元旦に実施する地域のマラソン大会では、道路に出てランナーの子ども達を応援していたが、現在は中断している。外出が厳しい利用者は、テラスのテーブル席で桜見や外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 自分が管理出来ない方の金銭管理はご家族へお願いしている。 管理能力ある方については、職員が介助を行いながら自分でお金を所持したり、使うことをしてもらい本人の意思を大切にしている。 		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和 5年 3月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に合わせてその都度できるように支援している。 ・本人が家族に連絡をとりたい時に、話をしたり、気持ちを伝えたり出来るように支援している。 		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスがあり出入りを自由に行っている、色々な植物や花など、テーブル、イス等を配置し居心地よく過ごせるような工夫をしている。 ・空気清浄機や、加湿器なども常時活用され、気を配っている。 	赤瓦屋根の平屋を改造した事業所で、玄関フロアに続く食堂、廊下とキッチン、その奥にリビングや居室が配置されている。リビングにはソファを3つ設置し、利用者がテレビを見たり、自由に座ってくつろげるよう配慮している。庭に面したテラスにはテーブルや椅子を置き、桜をはじめ季節の折々の花、植栽等が眺められ、団欒や日光浴の場として活用している。上部にある小窓の開閉で換気を、加湿器等で温度湿度を調整している。玄関内の壁に外出用の男女の帽子等が掛けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングでの座席の配置やベランダ、食堂と思い思いに過ごせるように配慮している。 ・自分の部屋に戻りたい時は自分の意思で戻れるようになっている。 		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が使い慣れた物や好みのもをを活かし、活用している。 ・筆筒など本人が持ってきた物を使ってもらっている、家族さんに、本人の想いで大切な物を持ってきてもらっている。 	各居室には、ベッドやエアコン、カーテン、ナースコール等が設置され、利用者は時計やタンス、ハンガーラック、テーブルセット、ラジカセ、本、家族写真等を持ち込んで部屋づくりをしている。愛用の枕やタオルケット、クッション等も持ち込みとなっている。職員の声かけで、部屋のゴミ出しを行う利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ出来る範囲を把握し無理がないように行って頂き、声かけや一緒に行く、自立した生活が送れるように支援している。		